

第6学年国語科指導案

日 時 平成25年11月19日(火) 5校時
児 童 6年3組(男14名 女19名 計33名)
指 導 者 佐藤俊哉(北上市立黒沢尻東小学校)
共同研究者 大貫絵理子(北上市立黒沢尻西小学校)
柴田良輔(北上市立南中学校)

1 単元名 高畑勲さんになったつもりで解説文を書こう ～みんなに伝わる絵画の解説者に～

2 教材名 『鳥獣戯画』を読む 高畑 勲(光村図書 国語6年)
この絵、わたしはこう見る(光村図書 国語6年)

3 単元について

(1) 児童について

本学級の児童はこれまで、説明的文章の学習において以下のような学習内容を学んできた。

「感情」文章構成、段落相互の関係、要旨

「生き物はつながりの中に」段落構成、段落相互の関係、トピックセンテンス、要旨

『平和』について考える」文章構成、要旨(自分の主張として)

これらの学習をとおして、特に「事実と意見、感想」に関わって、要旨がどのような事例によって支えられているか、論の展開や述べ方の工夫という観点での学習を心がけてきた。このことにより、児童は、要旨を確定させることについて、また、その要旨と事例の整合性をとらえることができつつあるが、『平和』について考える」の単元において意見文を書く際には、要旨と事例の関係について気をつけながらも、実際に組み立てるとなると苦慮している姿が見られた。

また、日常の学習の様子を見ていると、自分の考えを発表することはできても、その根拠となるところも合わせて発表したり、友達との考えを比較して述べたり、関係付けて自分の考えを述べるのが苦手な児童が多い。

今回教材として扱う文章は解説文的な要素が強い教材である。このような文章については、図工や音楽の鑑賞という形で経験しており、対象事物のすばらしさを感じる力、感性がある児童が多い。しかしそれを「すごい」「良かった」という表現で鑑賞を終えており、「ものの見方」のものさしやそれを表現する語彙等が不足している傾向にある。

(2) 教材について

本教材『鳥獣戯画』を読むは、12世紀に制作された絵巻物『鳥獣戯画』について、現在のアニメーション映画の監督である高畑勲氏が、絵の解説と解釈、評価を述べている評論文である。動物の描写や、優れた技法と表現力、作品のもつ物語性など、筆者が素晴らしいと感じる点について絵と対応させながら解説し、感想や意見を述べている。身近なアニメの世界を創造する筆者が、『鳥獣戯画』を見て、様々な視点から現代の漫画やアニメーションとのつながりを述べている本文は、児童にとって大変興味深い内容である。

本教材の特徴は、逆説や累加、限定、体言止めなどの強調表現が多く、大変歯切れの良い文体で書かれている。「めくってごらん」「どうだい」「今度は君たちが考える番だ」など読み手に語りかけるような調子で書かれており、読者を惹きつけ、思わず先を読みたくなるような文章である。また、筆者が自分のものの見方を読者に納得してもらうための表現や構成の工夫は、「書き出し」「絵の出し方」「文末表現」「漫画やアニメとの比較」などにみられる。これらの表現や構成のよさに着目することで、筆者の『鳥獣戯画』への強い関心と感動を読み解くことができる。

文章構成は、9段落からなる尾括型の文章で、要旨は最後の段落に凝縮されている。9段落に、それまで繰り返し現れてきた絵や絵巻物に対する筆者の評価がまとめて述べられている。アニメーション映画の監督という視点から、アニメや漫画の手法と比較することで、当時の絵巻物の優れた表現力

や日本文化の特徴を読者に伝えようとしている。今や世界中で受け入れられている漫画やアニメーション。その中で日本の作品が果たしてきた役割は大変大きい。そのアニメや漫画の原点がおよそ90年前の日本にあったということ、単なる日本の「国宝」にとどまることなく「人類の宝」だと述べている。しかし、現代の子どもたちにとって、「宝」に対するイメージは、「自分が大切にしているもの」であり、『鳥獣戯画』などの文化財が「宝」であるという感覚はほとんどないと思われる。そこで、筆者が、『鳥獣戯画』が「国宝であるだけでなく、人類の宝なのだ。」と述べていることの意義を考えることで、これまで大切に伝えられてきた『鳥獣戯画』などの文化財への見方を広げていくことを期待する。さらに、『鳥獣戯画』に対する筆者の見方を受け入れたり、自分や友達の考えと比べたりすることで、ものの見方や解釈の仕方を広げることにもなると考える。

(3) 指導にあたって

本単元では、自分が選んだ「鳥獣戯画」の場面を筆者の高畑勲氏になりきって解説文を書き、より多くの人に共感してもらうことを目標として学習を展開していく。そのために、第1次では、どのような解説文を書くのか見通しをもたせるために、教師が解説文のモデルを提示し、これを分析する作業を取り入れる。このことにより、児童に学習の見通しと意欲をもたせる。

第2次では、まず、要旨を見つける活動をする。筆者は何を主張しているのかを見つけることで、その根拠となる要素が文章に散りばめられていることが学習していくうちに気付くことができる。それが、絵を読み取る観点（着眼点）であり、読み手を惹きつける表現技法であることを読み取らせた。また、絵と文章を照らし合わせながら読むことで、筆者が鳥獣戯画をどのような観点でとらえ、どう評価しているのかを読み取らせていく。文末表現や絵の出し方などに着目させ、読み手を惹きつけるための筆者の表現技法を学び、表現の工夫に気付かせたい。学習を進めていくうちに、教材文が鑑賞を中心に述べられている文と解説を中心に述べられている文に分かれて構成されている点にも気付かせたい。

筆者の要旨をとらえ、その根拠となる、着眼点と、効果的に伝えるために用いている表現技法を学んでいく中で、自分が「鳥獣戯画」の中から選んだ場面の解説文を書く際に、学習したことが活かせるようにさせたい。

第3次では、第2次までに学んだ要素を活かし、高畑さんに倣って自分なりの解説文を書く活動を位置付ける。その際、自分が一番伝えたいこと「要旨」を確定させ、そのことからぶれないように、解説文を書かせていきたい。また、単元の最後に、学習したことを活かして、「この絵、わたしはこう見る」にある『風神雷神図屏風』を再度鑑賞して、解説文を書く。単元の最初に書いた自分の文章と比較して、変容を感じることで、学習成果に対する喜びや自己肯定感を高めていきたい。

4 単元の目標と評価規準

(1) 目標

自分の感じた作品のよさを伝えるために、教材文から、すばらしいと感じる具体的な観点を見つけたり、筆者の表現の工夫を読み取りながら、自分なりに絵画を解説する文章を書くことができる。

(2) 評価規準

【関心・意欲・態度】

○絵画に興味をもち、筆者のものの見方、表現技法を取り入れながら自分なりに絵画から読み取ったこと、感じたことを伝えようとしている。

【読む能力】

○絵画の解説文を書くために、筆者の「ものの見方」（着眼点）や解説がよく伝わる表現技法に着目して読んでいる。（ウ）

【書く能力】

○絵画から読み取ったことや感じたことを、事実と感想を区別して解説文を書いている。（ウ）

【言語についての知識・理解・技能】

○語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもって読んでいる。（イー（カ））

5 単元の指導計画

次	時	学習活動	言語活動に関する指導上のポイント(○) 学習活動に即した評価規準(関・読・言)等
第0次		1. 小学校1年生から6年生まで学習した、物語文と説明文を振り返り、文章の種類の種類分けを行う。 2. 『風神雷神図屏風』を鑑賞して、感想を書く。	○学習してきた教材文には、物語文と説明文があったことを振り返る。 ○自分が良いと思った観点で、感想の文章を書く。 ○鑑賞文と解説文についてふれる。
第1次	第1時	1. 『風神雷神図屏風』版の解説文のモデルを児童に提示し、単元を通してどのような学習活動を行っていくのかという単元の見通しをもつ。 2. 「『鳥獣戯画』を読む」の全文を読む。	○解説のモデル文には、①鑑賞文②解説文③要旨の3つの要素を盛り込んだものを提示する。 ○単元の目標・ゴールを確認し、単元の見通しをもつ。高畑勲氏の教材文を基にして、ものの見方を広げ、表現技法もまねて、より良い解説文を書くことができる。 ○ゴール:高畑勲氏になったつもりで、「鳥獣戯画」の他の場面の解説文を書き、他の人に見てもらう。 関 モデル解説文に関心をもち、学習の見通しをもつことができる。
	第2時	1. 「『鳥獣戯画』を読む」の全文を再度読む。 2. 高畑勲氏になったつもりで解説文を書くための学習計画を立てる。 3. 「鳥獣戯画」の絵を読む着眼点とそれを解説している表現技法を次時より学習することを知らせる。	○学習計画を立て、学習の見通しをもつことで、学習活動の意図をつかみ、学習の見通しをもつ。 ○「鳥獣戯画」の甲巻全場面を掲示し、どの場面の解説文を書きたいのか見通しをもつ。 言 語句の意味を辞書で調べ、その意味を理解する。
第2次	第3時	1. 全文を通読し、教科書で取り上げられている「鳥獣戯画」の絵画をしっかり見て、文章と照し合せる。 2. 教材文を読み取り、高畑勲氏の要旨がどの段落のどの部分に書かれているかを確認する。	○「『鳥獣戯画』は、だから、国宝であるだけでなく、人類の宝なのだ。」と言いつける高畑勲氏の要旨とその根拠を見つけていくことをおさえる。 読 筆者の要旨を見つけ、どのようなことを根拠として主張しているか、とらえている。
	第4時 本時	1. 鑑賞文の段落で、絵画のどこが優れているのか、高畑勲氏の考えとその根拠となる部分、絵を読む観点(着眼点)を読み取る。どんな観点とどのように表現しているのかをみんなでまとめていく。 2. 自分が高畑勲氏になりきって解説文を書く際に、どの観点を活用するか、見通しをもつ。	○【体つき・筆運び・線・色・バランス・表情・ポーズ・表現の仕方・描き方・登場人物の周りの描き方】などの高畑勲氏の絵を読む着眼点を見つけて、自分のものにしていく。 読 絵画と文章を照らし合わせ、筆者の着眼点とどのように表現しているかを読み取っている。
	第5時	1. 「『鳥獣戯画』を読む」の要旨から、高畑勲氏の解説文の表現技法の優れている点を見つける。要旨の根拠がわかりやすく表現されていることに気付く。 2. 自分が高畑勲氏になりきって解説文を書く際に、どの表現技法を活	○【解説文・鑑賞文の使い分け、体言止め、書き出し、文末表現、断定、大げさな表現、テンポ、リズム、実況している様子、擬音語、想像の会話文、感想】等の表現技法で読み手を惹きつけている。この教材文には、解説文と鑑賞文が混ざって表現されていることと要旨について、再度確認する。 読 筆者の表現技法の優れている点を読み取って

		用するか、見通しをもつ。	る。
第3次	第6時	1. 他場面を鑑賞して、どの場面の解説文を書くか決める。 2. これまで学習した高畑勲氏の着眼点と表現技法を活かして、構成メモを作成する。	○「鳥獣戯画」の絵巻物を全て用意し、また、この絵画に関する資料も配付する。どの場面がいいか、自分で選ぶ。その解説文を高畑勲氏になりきって書く。 書 自分が解説文を書きたい場面を決め、筆者の着眼点や表現技法を取り入れて、構成メモを書いている。
	第7時	1. 構成メモを基に、どの観点を基に、どのような表現技法を使いのかを考えて、自分が選んだ「鳥獣戯画」の場面の解説文を書く。	○これまで学習した筆者の着眼点や表現技法を取り入れて、構成メモを書いていく。これが解説文を書く際の材料になる。 書 筆者の着眼点や表現技法を取り入れて活用し、自分で考えた解説文を書いている。
	第8時	1. 用紙に清書して、「鳥獣戯画」の絵を貼り合わせて、解説文を仕上げる。 2. 解説文として絵画の部分と合体させて作り上げる。	○自分が選んだ場面に印をつけ、その絵を読み、構成メモを基に、解説文を書いていく。 書 筆者の着眼点や表現技法を取り入れて活用し、自分で考えた解説文を書いている。
	第9時	1. 友達の作品を読み合い、着眼点や表現技法の良い点を見つけ、評価し合う。	○これまでに学習した絵を読む着眼点や表現技法の良いところを見つける。 関 友達の着眼点や表現技法の良さを見つけ、評価しようとしている。
	第10時	1. これまで学習したことを活かして、『風神雷神図』を再度、鑑賞して、解説文を書く。 2. 第0次で書いた文と比較して、自分のものの見方や考え方、表現のしかたがどのように変化したか、確認し、単元で学習した達成感を味わう。	○第1次で鑑賞した『風神雷神図』を再度鑑賞して、これまで学習した絵を読む観点、表現技法を活用し、解説文を書いていく。文章の内容、量、表現のしかた、見る観点の変化などに気付かせる。 書 筆者の着眼点や表現技法を活用して、自分で考えた解説文を書いている。
第4次	他の「鳥獣戯画」の場面の解説文を掲示し、「鳥獣戯画」ギャラリーを開催。他学級との交流をする。 ＜他の「鳥獣戯画」の場面を貼り、400字程度の自分の解説文を書いたものを掲示する＞		

6 本時の展開

(1) 本時の目標

鑑賞文の段落で、絵画のどの点が優れているのか、筆者の考えとその根拠となる部分を読み取り、絵を読む観点（着眼点）をまとめることができる。

(2) 本時の評価の観点と具体的評価規準

評価規準	A 十分満足できる	B 概ね満足できる	C 努力を要する児童への手立て
読む能力	Bに加えて読み取った着眼点について、自分が活用するための具体的な事柄を書いている。	「鳥獣戯画」のどの部分を取り上げて優れていると表現しているかを見つけ、その着眼点を書いている。	全体で、例示を挙げてどこから見つけるかを確認する。また、他の児童との交流したものを書いていくよう支援する。

(3) 本時の展開

時間	学 習 活 動	指導上の留意点・評価規準 (◎)
導 入	1 前時の学習を想起する。	<ul style="list-style-type: none"> 本文の要旨が何かを確認し、本時は、要旨を支える叙述を扱うことを明確にする。 単元の中の本時の位置付けを確認する。
	2 本時の学習課題を確認する。	
展 開	3 どの段落に絵画の優れた点についての叙述が書いてあるかを見つける。	<ul style="list-style-type: none"> 要旨とそれに対する根拠が絵画の優れた点についての叙述として表現されていることも確認する。 鑑賞を中心に述べられている段落に書くことに気付かせる。 1つの段落を取り上げ、具体的な叙述から観点としてキーワード化させるまでの作業について確認することによって、下位の児童も、できるだけ見通しをもって活動できるようにする。 時間の効率化を図るため、教科書に直接作業させ、なお且つ、鑑賞文として位置付けられている段落を中心に読み取るが、観点が全て出ない場合は、指導者側で補足する。 体つき・筆運び・線・色・バランス・表情・ポーズ・表現の仕方・描き方・登場人物の周りの描き方・予想される会話・濃淡・位置等 <p>【例】抑揚のある線→線</p> <p>骨格も、手足も、毛並みも、ほぼ正確にしっかりと描いている→体つき</p> <ul style="list-style-type: none"> ペアやグループで意見を出し合う際は、観点として短くまとめた言葉が、適切かどうか、更にふさわしい言葉がないか、更に短くできないかという観点を与え交流させる。また、交流させることで、友だちの考えを取り入れたり、自分の考えに付け加えたりして、今後の学習で活用させる際に役立たせたい。
	<p>4 全体で、絵画の優れた点についての叙述の見つけ方とそれを着眼点としてまとめる方法を学ぶ。</p> <p>5 筆者が主張する「鳥獣戯画」の優れている点がどのように表現されているかを見つける。</p> <p>6 優れた点についての叙述を見つけ、その着眼点は何かをノートにまとめる。着眼点とその表現のしかたについて、ペアやグループで出し合う。</p>	
ま と め	<p>7 見つけたことを発表し、筆者の絵を読む観点について、その表現についてまとめる。</p> <p>8 本時の学習活動を振り返る。</p> <p>9 次時の学習活動を知る。</p>	<p>◎「鳥獣戯画」の優れた点についての叙述を読み取り、その文章から着眼点について考え、まとめることができか。(発言、ノート)</p> <ul style="list-style-type: none"> 振り返りの観点は交流を通して自分が得たこと。 次時は、高畑勲氏の解説文の表現技法の優れている点を見つける学習を行うことを伝える。

第6学年国語科単元構想（光村；『鳥獣戯画』を読む）

【児童の実態】

【身に付けさせたい力】

○これまでの説明文において、①段落の要点化、②要旨をとらえる、③要旨を確定させ、事例を整理して文章を書く学習活動を行ってきた。

(1)「感情」**文章構成** **段落相互の関係** **要旨**

(2)「生き物はつながりの中に」**段落構成**
段落相互の関係 **トピックセンテンス** **要旨**

(3)「『平和』について考える」
文章構成 **要旨(自分の主張)**

○「ものの見方」のものさしやそれを表現する語彙が不足している。

○図工や音楽の鑑賞の学習において、対象事物の素晴らしさを感じる力・感性がある。しかし、それを「すごい」「良かった」という表現で鑑賞を終えている。

筆者の「ものの見方」を活用しながら、

○本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりする力(C-オ)

○目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらかいたりする力(C-ウ)

○事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりする力(B-ウ)

【単元を貫く言語活動】

筆者の「ものの見方」を活用して、自分で感じた絵画の解説文を書きまとめる。

【言語活動の特徴】

「『鳥獣戯画』を読む」を読み取っていく中で、筆者の「ものの見方」の観点(着眼点)と表現技法を学習する。

その際に、読み取る観点を「着眼点」と「表現技法」にしぼり、この2つを「文章を読む観点」として学習を展開していく。

「着眼点をとらえる」活動は、「要旨との関連を押さえながら、文章から大事な言葉を読み取り、短く要約する能力」の育成に資すると考える。

「表現技法を読み取る」活動は、「表現の工夫などに気をつけて読む能力」の育成に資すると考える。

つまり、筆者の「ものの見方」が自分の一つの「ものさし」となり、その対象事物を明確にとらえることができるとともに、そのとらえたことを効果的に伝える工夫を身に付けることができると考える。また、「絵を読む観点」を学習することで、着眼点の一般化や自分の気持ちにあった評価語彙も見つけやすくなる。

これらをふまえて、言語活動は自分で選んだ絵画の良さを解説者になったつもりで解説文を書き、ギャラリーに掲示し、同じ6年生に紹介する活動を行う。

1. 単元名 高畑勲さんになったつもりで解説文を書こう ～みんなに伝わる絵画の解説者に～

2. 単元の目標

自分の感じた作品の良さを伝えるために、教材文から、すばらしいと感じる具体的な観点を見つけたり

筆者の表現の工夫を読み取りながら、自分なりに絵画を解説する文章を書くことができる。

3. 単元の評価規準

【国語への関心・意欲・態度】

☆絵画に興味をもち、筆者のものの見方、表現技法を取り入れながら自分なりに絵画から読み取ったこと、感じたことを伝えようとしている。

【読む能力】

☆絵画の解説文を書くために、筆者の「ものの見方」(着眼点)や解説がよく伝わる表現技法に着目して読んでいる。(ウ)

【書く能力】

☆絵画から読み取ったことや感じたことを、事実と感想を区別して解説文を書いている。(ウ)

【言語についての知識・理解・技能】

☆語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもって読んでいる。(イ-(力))

4. 教材 「『鳥獣戯画』を読む」「この絵、わたしはこう見る」(光村 図書6年)

「鳥獣戯画」(平安後期～鎌倉時代)

5. 単元の展開(全 10 時間 読むこと5時間書くこと5時間)

次	時	学習活動	言語活動に関する指導上のポイント(○) 学習活動に即した評価規準(関・読・言)等
第0次		1. 小学校1年生から6年生まで学習した、物語文と説明文を振り返り、文章の種類の棲み分けを行う。 2. 『風神雷神図屏風』を鑑賞して、感想を書く。	○学習してきた教材文には、物語文と説明文があったことを振り返る ○自分が良いと思った観点で、感想の文章を書く。 ○鑑賞文と解説文についてふれる。
第1次	第1時	1. 『風神雷神図屏風』版の解説文のモデルを児童に提示し、単元を通してどのような学習活動を行っていくのかという単元の見通しをもつ。 2. 「『鳥獣戯画』を読む」の全文を読む。	○解説のモデル文には、①鑑賞文②解説文③要旨の3つの要素を盛り込んだものを提示する。 ○単元の見通し・ゴールを確認し、単元の見通しをもつ。 高畑勲氏の教材文を基にして、ものの見方を広げ、表現技法もまねて、より良い解説文を書くことができる。 ○ゴール: 高畑勲氏になったつもりで、「鳥獣戯画」の他の場面の解説文を書き、他の人に見てもらおう。 関モデル解説文に関心を持ち、学習の見通しをもつことができる。
	第2時	1. 「『鳥獣戯画』を読む」の全文を再度読む。 2. 高畑勲氏になったつもりで解説文を書くための学習計画を立てる。 3. 「鳥獣戯画」の絵を読む着眼点とそれを解説している表現技法を次時より学習することを知らせる。	○学習計画を立て、学習の見通しをもつことで、学習活動の意図をつかみ、学習の見通しをもつ。 ○「鳥獣戯画」の甲巻全場面を掲示し、どの場面の解説文を書きたいのか見通しをもつ。 言 語句の意味を辞書で調べ、その意味を理解する。
第2次	第3時	1. 全文を通読し、教科書で取り上げられている「鳥獣戯画」の絵画をしっかり見て、文章と照し合わせる。 2. 教材文を読み取り、高畑勲氏の要旨がどの段落のどの部分に書かれているかを確認する。	○「『鳥獣戯画』は、だから、国宝であるだけでなく、人類の宝なのだ。」と言い切る高畑勲氏の要旨とその根拠を見つけていくことをおさえる。 読 筆者の要旨を見つけ、どのようなことを根拠として主張しているか、とらえている。
	第4時	1. 鑑賞文の段落で、絵画のどこが優れているのか、高畑勲氏の考えとその根拠となる部分、絵を読む観点(着眼点)を読み取る。どんな観点とどのように表現しているのかをみんなでまとめていく。 2. 自分が高畑勲氏になりきって解説文を書く際に、どの観点を活用するか、見通しをもつ。	○【体つき・筆運び・線・色・バランス・表情・ポーズ・表現の仕方・描き方・登場人物の周りの描き方】などの高畑勲氏の絵を読む着眼点を見つけて、自分のものにしていく。 読 絵画と文章を照らし合わせ、筆者の着眼点とどのように表現しているかを読み取っている。
	第5時	1. 「『鳥獣戯画』を読む」の要旨から、高畑勲氏の解説文の表現技法の優れている点を見つける。要旨の根拠がわかりやすく表現されていることに気付く。 2. 自分が高畑勲氏になりきって解説文を書く際に、どの表現技法を活用するか、見通しをもつ。	○【解説文・鑑賞文の使い分け、体言止め、書き出し、文末表現、断定、大げさな表現、テンポ、リズム、実況している様子、擬音語想像の会話文、感想】等の表現技法で読み手を惹きつけている。この教材文には、解説文と鑑賞文が混ざって表現されていることと要旨について、再度確認する。 読 筆者の表現技法の優れている点を読み取っている。
第3次	第6時	1. 他場面を鑑賞して、どの場面の解説文を書くか決める。 2. これまで学習した高畑勲氏の着眼点と表現技法を活かして、構成メモを作成する。	○「鳥獣戯画」の絵巻物を全て用意し、また、この絵画に関する資料も配付する。どの場面がいいか、自分で選ぶ。 その解説文を高畑勲氏になりきって書く。 書 自分が解説文を書きたい場面を決め、筆者の着眼点や表現技法を取り入れて、構成メモを書いている。
	第7時	1. 構成メモを基に、どの観点を基に、どのような表現技法を使いのかを考えて、自分が選んだ、「鳥獣戯画」の場面の解説文を書く。	○これまで学習した筆者の着眼点や表現技法を取り入れて、構成メモを書いていく。これが解説文を書く際の材料になる。 書 筆者の着眼点や表現技法を取り入れて活用し、自分で考えた解説文を書いている。
	第8時	1. 用紙に清書して、「鳥獣戯画」の絵を貼り合わせて、解説文を仕上げる。 2. 解説文として絵画の部分と合体させて作り上げる。	○自分が選んだ場面に印をつけ、その絵を読み、構成メモを基に、解説文を書いていく。 書 筆者の着眼点や表現技法を取り入れて活用し、自分で考えた解説文を書いている。
	第9時	1. 友達の作品を読み合い、着眼点や表現技法の良い点を見つけ、評価し合う。	○これまでに学習した絵を読む着眼点や表現技法の良いところを見つめる。 関 友達の着眼点や表現技法の良さを見つけ、評価しようとしている。
	第10時	1. これまで学習したことを活かして、『風神雷神図』を再度、鑑賞して、解説文を書く。 2. 第0次で書いた文と比較して、自分のものの見方や考え方、表現のしかたがどのように変化したか、確認し、単元で学習した達成感を味わう。	○第1次で鑑賞した『風神雷神図』を再度鑑賞して、これまで学習した解説文を書いていく。文章の内容、量、表現のしかた、見る観点などに気付かせる。 書 筆者の着眼点や表現技法を活用して、自分で考えた解説文を書いている。
第4次	他の「鳥獣戯画」の場面の解説文を掲示し、「鳥獣戯画」ギャラリーを開催。他学級との交流をする。 <他の「鳥獣戯画」の場面を貼り、400字程度の自分の解説文を書いたものを掲示する>		